第４２回全国中学生人権作文コンテスト奈良県大会審査講評

第４２回全国中学生人権作文コンテスト奈良県大会入賞者のみなさん、おめでとうございます。表彰式にあたりまして、僭越ですが、関係者を代表して、講評並びに一言御挨拶を申し上げます。

今年は、県内から９，８４８編という応募があったとお聞きしました。これほどたくさんの中学生が、人権について深く考え、自分の考えや意見をしっかりと述べているということに、心を動かされました。未来の社会が明るく照らされたような気持ちになり嬉しくなりました。

さて、今回も、豊かな感性とピュアな感覚で、身のまわりの人権問題をとらえている、すぐれた作文が寄せられました。それらを読ませていただく中で、みなさんの人権に対する、素晴らしい姿勢や　鋭い視点に感銘を受けると同時に、選考する側である私自身の人権感覚について改めて見つめ直す機会をいただいたような気がします。

今回の応募作品すべてについて触れるのが本来ではありますが、時間の関係上、
その中から入賞作品を２つ、紹介したいと思います。

まずは、最優秀賞の　奈良県人権擁護委員連合会長賞に輝いた、**廣田　知愛（ひろたちな）**さんの作品「姉は障がい者」についてです。

物事に対する集中力の強さを持っていたり、気持ちをコントロールしようと努力したりする筆者のお姉さん。筆者はお姉さんへ尊敬の眼差しを向けるとともに、こだわりのあるお姉さんとの暮らし方について　考えながら生活をしています。その一方、障害のある人を一括りにしたり、障害のある人はできない人だと決めつけたりする世の中の風潮に疑問を覚えます。そして、障害の有無に限らず、その人の成長に気付き、その成長を共に喜べる周りの人の存在の大切さを訴えた作文でした。
「障害のある人には優しくしよう」という一見親切なようですが、これは筆者のいう「障害者はできない人」という先入観があるのではないかということ、障害者と健常者を区別しているのではないか　ということに　この作文から気付かされます。
また、現在は間違いや失敗をした人へのＳＮＳ上での攻撃とも捉えられる書き込み等が多く見られます。筆者のいうお互いの頑張りや成長を認め、讃え合うあたたかな
つながりを広げ、一人一人が主役になる社会を構築していきたいものです。

次に、同じく最優秀賞の　奈良地方法務局長賞に輝いた**新　真紘（あたらし　まひろ）**さんの作品**「私は幸せ者」**についてです。

「忘れ物が多い」「長時間集中することが苦手」という所を改善しようと努力しても効果が現れない自分に自信をなくしていた筆者は、検査結果でその原因が分かり安心すると同時に今後のことが不安になります。その筆者が自分の障害について友だちに打ち明けると、友だちは当たり前のように「別にそれで距離を置かないよ。あなたはあなたやで。」と返答します。筆者は題名を「私は幸せ者」とし、作文の最後も「私は周りの人達がいてくれて幸せです」と結んでいます。

このことからは友だちの言葉を受け、「自分はありのままでいいんだ」と思えた筆者の喜びと安心感が伝わってきます。ありのままの自分自身を受け止めてくれる家族や友だちがまわりにいること。それだけで人は安心するとともに自分のことを肯定的に認めることができます。筆者の友だちのように「あなたはあなたやで。」と当たり前に言い合える社会でありたいものです。

２つの作品は、その身近さゆえに、それぞれの筆者の葛藤や気付きが読む者にまっすぐに伝わってきます。二人がいう「成長や頑張りを認め合うこと」「まるごと受け入れること」は私たちの日常で忘れかけていたことではないでしょうか。この機会にその重要性を再確認し、一人一人が安心して自分らしく生活できる社会を皆さんとともに作っていきたいものです。

最後になりましたが、この人権作文コンテスト奈良県大会に応募してくださった多くの中学生のみなさん、御指導いただきました学校の先生方、そして企画・運営いただいた奈良地方法務局･奈良県人権擁護委員連合会の皆様に改めて敬意を表しますとともに、今後もこのコンテストが一層発展したものになることを御祈念申し上げ、講評とさせていただきます。

本日は、おめでとうございました。